

土地改良記念碑探訪

有明町：野井倉開田記念碑

野井倉開田記念碑は、昭和30年11月8日、記念碑と田の神とを合体して建立されている。

大正10年(1921年)、農林省は地元の要望を受けて現地を調査したが、導水路の開削等に莫大な工事費がかかるため、工事実施は無理であると結論した。ところが、地元農民はこれに屈せず、開田を目的とする耕地整理組合を昭和5年(1930年)に結成し、粘り強く国との折衝を続けることとした。

それから四半世紀を経てついに事業を成功させた地域農民、特に組合長として一生を開田に捧げた野井倉甚兵衛の功績は、これからも記憶されるべきである。この開田により有明町の農業生産力は飛躍的に向上した。



工事の概要は、菱田川の上流牛ヶ迫堰堤(延長 59. 54m、高さ7m)より取水し、12. 9kmの導水路(90%が隧道)、幹線用水10km、幹線排水路が4. 7kmを農林省直轄工事で行い、耕地整理組合が補助を得て用水路3. 6km、排水路5. 6km、道路2. 3km、520haを開田し、併せて100haの畑地を開いた。開田が完成すると800戸が入植し、1戸あたり田62a、畑13aの配分を受け耕作が始められた。

記念碑には、作家椋鳩十の句「農夫は土のめぐみにひたり 陽は金に」が堀井鶴畔の筆により刻まれている。現在、野井倉土地改良区により維持管理されており、昭和54年から、県営ため池等整備事業が実施され、水門及び隧道が改修された。

次の回では、碑文に記されている野井倉開田の経緯と概要、この開田事業に心血を注いだ野井倉甚兵衛翁の奮闘にふれたい。

- ◇ 参考文献:「鹿児島土地改良記念碑」より抜粋
- ◇ 発行:鹿児島県土地改良事業団体連合会
- ◇ 発行日:平成元年3月30日